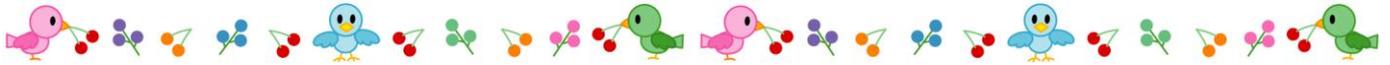


5月 みまき

久御山町立御牧小学校
令和2年5月1日(金)



<http://www.kyoto-be.ne.jp/mimaki-es/>



御牧小のみんな、元気に過ごしているかな

みなさん、元気にしていますか。手洗い、しっかりしていますか。家での学習は順調ですか。学校は、桜の花が散った後、木々の緑が一層あざやかになってきました。冬の間は茶色くなって眠っていた芝生も、あたたかい太陽の光をいっぱい受け、生き生きと広がってきました。一年で一番過ごしやすいこの季節。色とりどりのたくさんの花や鳥の声。本当なら今ごろはたくさんの子どもたちが、楽しく、にぎやかにつどい、学校生活を楽しんでいるときなのに、今はだれもいません。

日本各地に感染が広がった新型コロナウイルスの影響が大変大きくなってきています。御牧小学校でも、始業式、入学式は行いましたが、それからはほんの少し授業日があっただけで、楽しみにしている給食でさえ、まだ一度もありません。始業式や入学式でみせてくれた、やる気いっぱいのみなさんの表情を思い浮かべると、大変残念な気持ちになります。みなさんも毎日家にこもり、友だちのこと、学校の再開こと、学習のことなど、不安な気持ちでいっぱいだと思います。長くて出口の見えないトンネルの中に入ったような気持ちになった人もいるかもしれません。

しかし、出口のないトンネルはありません。また、みんなで思いっきり笑い合える日がきます。思う存分に友だちと遊び、学び合える時がきます。そのためには、今が大事です。今自分にできること（手洗い、うがい、家での学習や運動）をきちんとやり、元気でいてください。それと、何か悩みがあったり、困ったりすることがあれば、先生に連絡してください。

また、今回のようなことは、今生きている人の多くが経験したことのない、「非常事態」と言われます。日本はもちろん、世界中の人たちが心をつなげて乗り越えていかなければなりません。この「非常事態」を乗り越えるため、正しい情報をもとに、守るべきことをみんなで守っていくことで、今回のことを「貴重な経験」にしてほしいと思います。

校長先生より



お知らせ

6月の学校再開に向けて、準備を行っていますが、年度当初にお知らせした年間の学校行事については、今後も変更させていただく可能性があります。決まり次第、メール配信やホームページ、学校だより等でお知らせいたします。また、先日、お配りしたPTA総会に対する委任状は、下記の方法で返信をお願いいたします。

PTA委任状について

- ・宿題プリントの返却用封筒に同封する。
- ・FAXにて送信する。(075-631-0046)
- ・学校再開日に、提出する。

これからの教育

学力向上担当
金澤 健二

新年度になりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止における措置で、保護者の皆様には様々な面でご協力をいただきありがとうございます。

さて、ご存じの方も多いと思いますが、今年度より学習指導要領が変わりました。学習指導要領とは、国が定めた「教育課程の基準」となるものです。つまり、学校教育はこの学習指導要領で定めた資質や能力が育成されるように教育活動を行っていくこととなります。また、学習指導要領が求める資質や能力とは、これからの社会において必要になってくる力ということになります。

では、それはどのようなものかという点、「未知の問題や課題に対して、自分の知識などを生かし、自ら考え判断し、他者と協働しながら答えを見つけ出し、いく力」です。これは、初めて挑戦することに対して、今までの自分の経験などを生かし、自分なりに、または友だちと協力し合う中で答えを見つけられるようになるということです。実はこの考え方は、新たに打ち出されたものではありません。今まで求められてきた「生きる力(変化の激しいこれからの社会を生き抜くための力)」をよりよく育むために明確化が図られたものです。

そんな子どもたちを育てていくために、御牧小学校でも少しずつですが取組を進めていきます。まず、子どもたちが学習課題に対して、気づきを持って学びを進めていく授業づくりです。問題を解くうちに分かったと気づくこともあれば、友だちの話で気づくこともあるかもしれません。また、今まで学習してきたこととつながっているということに気づくこともあるかもしれません。様々な気づきの中で、自ら考え判断し、答えを見つけられる子どもを育てていきます。

また、子ども一人一人が、自分に合った学習速度の教室を自分で選択し、学びを進めていけるように、去年まで行われていた少人数指導の見直しを計画しています。

最後に、保護者の皆様とも考えていきたいのは、いつ治まるとも知れない新型コロナウイルスの感染拡大にともなう臨時休業、この状況が「未知の問題」にあたるのではないかとということです。どうすることが正解かは分かりません。しかし、この状況に対して不安を抱いたまま過ごすのではなく、その中で今必要なことは何かを考え、時には家族で相談し、実行していく(答えを見つける)ことが大切なのではないでしょうか。それは、まさに久御山学園の掲げる児童に最もつけたい力＝「自己指導能力」にもつながっています。ピンチをチャンスにとはよく言われますが、学校でも新学習指導要領が目指す子どもの姿を見定め、本当につけるべき力はこういったものなのかを見つけ出し、授業づくりを進めていきたいと考えております。